

特集 世界選手権は 何を残したか



7日のモーグルで優勝を確認し、喜びを爆発させる上村愛子選手（北野建設スキークラブ）

世界三十二の国と地域から、選手・関係者ら五百八人が猪苗代町と磐梯町に集ったFIS（国際スキー連盟）フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会。

町民・町・県・スキー連盟などが一体となり歩んだ五年間。大会の運営費不足問題の浮上や、深刻な雪不足など、開催自体が危ぶまれることもあったが大会は無事に成功することができた。紆余曲折を経た大会は、なぜ成功にこぎつけることができたのか。

この成功は猪苗代町に何をもたらしたのか。大会全体を通して検証する。

競技結果紹介

三月二日（月）

スキークロス

晴天に恵まれた第一日目、大会のトップを切った猪苗代スキー場中央で開催されたのは、男女スキークロス。予選と決勝で激しい雪上バトルを繰り返した。

日本勢では男子のエース瀧澤宏臣選手（明徳寺）の十二位が最高。女子のエース福島 のり子選手（TCI石井スポーツ）は決勝一回戦でまさかの転倒。十八位に終わった。男子はアンドレアス・マツト選手（オーストリア）が、

女子はアシユリー・マカイ（カナダ）がそれぞれ初優勝した。

三月三日（火）・四日（水）

エアリアル

第二日目はリステルスキーファンタジアに会場を移し、エアリアルの予選が開催され、鳥人たちが技を競い合った。日本勢は、本町を中心に活動している田原直哉選手（徳洲会）や、猪苗代スキークラブ所属の倉田孝太郎選手、学生時代から町内に合宿に来ていた水野剣選手（ノースランド）・西川史朗選手（スカーゼ）と、本町にゆかりの深い四選手が出場したが、西

川選手、田原選手、水野選手が二十六、七、八位、倉田選手が三十二位でそれぞれ予選敗退と残念な結果となった。

第三日目はエアリアルの決勝。男子ではライアン・セントオンジュ選手（米国）が初優勝。女子では、トリノ五輪銀メダリストの李妮娜選手（中国）が優勝し、世界選手権三連覇を達成した。

三月五日（木）

ハーフパイプ

第四日目は国内屈指のスーパーパイプを持つアルツ磐梯でハーフパイプが開催された。日本勢男子では、中学時代まで猪苗代に住んでいたという丹野幹也選手（AP山形）が日本勢最高十八位、津田健太郎選手（片品）が十九位などで残念ながら予選敗退。

女子では冬期間アルツ磐梯で働いている地元ゆかりの松浦絵美選手（バンブス）が惜しくも七位、畑中みゆき選手（ジョックス）が十位、昨年のプレ大会で六位入賞した三星マナミ選手（雪浜）は高さのあるジャンプで観客を沸かせるも着地に失敗するなど十六位となった。

男子はケバン・ロラン選手（フランス）が優勝。女子ではビルジニ・フェーブル選手（スイス）が圧倒的な強さを見せて優勝した。

三月七日（土）

モーグル

第五日目はリステルスキーファンタジアに戻りフリースタイルで一番の人気種目、モーグルを開催。

日本女子のエース上村愛子選手（北野建設スキークラブ）が初優勝を果たした。日本人選手がフリースタイルスキーの世界選手権で優勝するのは初めてで、上村選手は来年のバンクーバー冬季五輪の代表内定も勝ち取った。

伊藤みき選手（中京大）はメダルにあと一步届かず四位入賞、里谷多英選手（フジテレビ）は九位、世界選手権初出場の村田愛里咲選手（北海道尚志学園高）は十九位で予選敗退となった。

男子では西伸幸選手（白馬）が日本勢最高の四位に入賞、地元チームリステルの附田雄剛選手が入賞にあと一步の七位、尾崎快選手（早大）は予選を突破するも決勝で

コースアウトし十六位、男子のエース上野修選手（リステル）は予選で転倒、三十八位でまさかの予選敗退となった。男子の優勝はパトリック・デニーン選手（米国）。

三月八日（日）

デュアルモーグル

大会最終日は前日の興奮冷めやらぬリステルでデュアルモーグルが開催された。

この日の主役も上村愛子選手だった。前日の疲れから何度かバランスを崩すレースもあったが、決勝まで勝ち進み伊藤みき選手と対戦、見事二個目の金メダルを手にした。準優勝の伊藤選手は初の銀メダルに満面の笑みを見せた。里谷多英選手は復活を感じさせる四位入賞。村田愛里咲選手は決勝の一回戦を突破できず十三位だった。

男子では、前日四位とメダルまであと一步だった悔しさをバネに西伸幸選手が準優勝。伊藤選手とともに五輪代表内定を決めた。附田雄剛選手は準々決勝で優勝したアレクサンダー・ピロド選手（カナダ）に惜敗し七位。上野修選手と尾崎快選手は予選を突破できず不本意な結果となった。



02 SA J 21 承認第 931 号



04



0506 SA J 21 承認第 927 号



03



0506



07

- 01 モーグルで4位、デュアルモーグルで準優勝の西伸幸選手（白馬ク）。苦手とされるエアもこの日は抜群の高さを見せた
- 02 イメージ通りのトリックが出せたと語る松浦絵美選手（パンプス）は入賞へと一歩の7位
- 03 メダルセレモニーで笑顔を見せる左から伊藤みき選手（中京大）、西伸幸選手、上村愛子選手（北野建設スキークラブ）の3人
- 04 4人が同時に滑るスキークロスの迫力は観客を圧倒した
- 05 各会場で「おもてなしの心」を伝えた豚汁の振る舞い。毎日ボランティアが活躍した
- 06 モーグル、デュアルモーグル共に7位と入賞まであと一歩だった附田雄剛選手（リステル）は正確なターンで健在ぶりを見せた
- 07 世界選手権3連覇という偉業を成し遂げた女子エアリアルの李妮娜選手（中国）のジャンプ
- 08 日本人同士の決勝となった女子デュアルモーグルに会場中が熱狂。上村愛子選手が優勝し、伊藤みき選手は初の銀メダルに輝いた



08

SA J 21 承認第 924 号



01 SA J 21 承認第 926 号



見る者を魅了した世界最高峰の技

翔舞

世界三十二の国と地域から、選手・関係者ら五百八人が参加し、過去最大の規模となった今大会。選手たちが世界の頂点を目指して挑戦した技やスピード、その圧倒的なパフォーマンスは、見る者を魅了し、大いに会場を沸かせた。

The World in Inawashiro

「協働」

で大会成功のために

官と民によるバックアップ

大会までのキセキ

二〇〇四年六月、米国マイアミで開催されたFIS総会の席上で猪苗代大会の開催が決定。本町には世界選手権組織委員会準備室が設置され、着々と準備が進んでいった。

〇七年をリハーサル大会、〇八年をプレ大会として大会の経験を積み、万全の体制で本大会に臨むつもりであった。

大会組織委員会議の席上で、リハーサル大会の収支決算報告が提出されたのが〇七年八月、すると事態は急変する。リハーサル大会の決算は、約三六〇〇万円の赤字。大会は大丈夫なのか。プレ大会はどうなるのかといった不安が噴出し、世間にも広まっていった。

大会の検証委員会を立ち上げる。大会予算について再度の検証を行ったところ、組織委員会の予算には国際映像制作費などが抜けていたことを指摘。三大大会の総予算は、二十一億円という試算を発表した。

この数字にマスコミや町民は反発を強めた。「その予算はどこから出るのか」「そんなに税金を投入するのなら大会を中止するべきではないか」

そんな中、組織委員会事務局は徹底した予算の見直しを図り、三大大会で八億一、三〇〇万円という予算を提出。組織委員会の承認を得た。コストをぎりぎりまで削った予算の中で、最高の運営と最大の歓迎をするためには、

びや雪合戦などで思い切り雪との触れ合いを楽しんだ。競技観戦の引率は、NPO法人うつくしまスポーツリーダーズが担当。間近で見る世界トップクラスの

環境省が進める国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」は、地球温暖化防止のために温室効果ガスの排出量を削減しようという運動で、組織委員会ではプレ大会から環境省と連携を取り合いながら地球温暖化防止について取り組んできた。



あいさつする吉野環境副大臣

環境省との連携

行政の力だけでは限界がある。各種団体や企業、県民や町民の協力ももらい、官と民が一体となって「協働」することが大会成功には欠かせない。組織委員会事務局が出した結論はそれだった。

期間中も会場内の大型ビジョンで選手からの温暖化防止メッセージ映像を紹介。会場内の各所に「ストップ温暖化」のロゴメッセージを掲出したり、ブースを設置してチーム員も募集するなど、啓蒙活動にも努めた。

今回の大会は「自然との共生」を理念に掲げ、大会の運営において排出される二酸化炭素を削減するとともに、削減ができなかった排出量を他の方法で埋め合わせる「カーボン・オフセット」のモデル事業にも採択されていた。



SAJ 21 承認第 930 号
エコバックを手に笑顔の選手ら

風力発電や太陽光発電設備からのグリーン電力証書によって二酸化炭素約二六〇トの排出量をオフセットすることに成功。環境にやさしい大会を国内外にアピールした。

NPOとの連携

うつくしまNPOネットワークでは、大会に合わせて二日から五日まで「未来の環境共生スキーヤー育成事業」を開催。会場となった町内の「ぼんだい×2」では、県内の小学生らが雪との触れ合いの楽しさや、地球温暖化や環境保全について学んだ。

NPO環境保全会議あいづ（ECA）のメンバーは、地球温暖化について、イラストや写真で説明したパネルや実験装置を使い、児童らと一緒に地球温暖化の防止策などに

ついて考えた。



ミニ風力発電機で実験

NPO法人ぼんだい2000のメンバーは、雪遊びの楽しさを伝えるイベントを担当。児童らはグレンデでのソリ遊



エアリアルを観戦する児童ら

の競技の迫力に、児童らからは歓声が上がった。

もう一方、メダルセレモニーの会場となった猪苗代町体験交流館では、「ふくしま会津の味と技の博覧会」が開催された。「おもてなしの心」を具現化するこの事業では、大会会場での豚汁の振る舞いサービスや、交流館での伝統芸能の公演、ふくしま会津の味と技に関する展示などで選手や観客をもてなした。

5日には猪苗代のそば振る舞い、7日にはアンコウの解体ショー、8日には力二鍋の



いなわしろ天鏡太鼓の演奏の様子

振る舞いなども催され、訪れた観客らは猪苗代だけでなく、ふくしまの味を思う存分味わった。

交流館の展示スペースには、



大会応援ソングJumP!で毎日会場を盛り上げたHarmonyさん

Interview

私の感じた世界選手権



プレミアムチケットで全試合を応援
刀根 隆 さん
京子 さん

開会式から毎日観戦し、選手たちを応援していた刀根さん夫妻（内野入）。

「モーグルをメインに考えていましたが、全競技面白いと思います。選手の顔や表情まで見ることができるし、テレビで見るとは迫力が違います」と話しました。話を聞いたのはハーフパイプ会場でしたが、モーグル会場でも手旗を振って懸命に応援する刀根さん夫妻の姿を見かけました。



名古屋から車を走らせ仲間5人と応援に

加藤 光仁さん

名古屋市中でスキーヤーの集まるモーグルバー「Birth Stone」を経営している加藤さん。

派手なカッツは会場でもひととき目立っていました。特に里谷多英選手と地元中京大の伊藤みき選手を応援してきたとのこと。話を聞いたのが予選突破直後だったこともあり、「めちゃくちゃ嬉しいです」と感想を述べました。スキーが好きな人は名古屋を訪れたらぜひお店に寄ってみてはいかがでしょうか。



須賀川市から家族で応援に
西間木 正行 さん
絵梨 さん
優 さん

「日本の選手を応援しにきました」と話す西間木さんは、このコースが出来たころに滑ったこともあるスキーヤー。「壁を滑っているみたいな感じだった」と当時の印象を振り返りました。

絵梨さんは「テレビで見るとより迫力があって、全然違う」優さんは「いつものスキー場より角度が急すごい」と選手たちのパフォーマンスに感心しながら応援していました。

「協働」

で大会を盛り上げるために 一人一人が責任を果たした

サポーターズクラブ

○九年三月に控えた本大会を成功させるため、PR活動や運営補助などの活動を行うサポーターズ会員の募集が始まったのは○七年十二月。

同二十二日、設立総会を実施。会長に江花俊和氏が就任し、クラブの活動がスタートした。

ポスター、チラシの発送作業から始まり、プレ大会ではスタッフとして活躍。さまざまな場所へ出かけ、各種イベントでのPR活動。時には雪だるまを作り、時には凧をあげ、陰になり日向になり、一年三カ月の間、地道に活動を続けた。すべては本大会の成功のために。

大会中は応援に立ち続ける会員も、スタッフとして会場に立つ会員も、あるいは駐車

場に立ち続ける会員もいた。競技を見ることもなく大会を終えた会員もいる。

「おもてなしの心」を一人でも多くの人に届けるために一人一人が行動した結果、大会は成功という結果を迎えた。



選手たちに贈られた白鳥の折り紙。製作を指導した長尾さん(右)と江花会長(中)

「おもてなしの心」を一人でも多くの人に届けるために一人一人が行動した結果、大会は成功という結果を迎えた。同クラブの江花俊和会長が「これだけの町民が集まり、町を挙げて一つの目標にむけて頑張ったのは画期的なこと。地味で目立たない活動が中心だったが、世界大会に携わり成功の一翼を担えたことは誇り」とあいさつした。

会員らは今後もこれまでの活動で培ったマンパワーを生かして町の活性化に協力することを誓い合った。

関係スキー場スタッフ

記録的な雪不足の中、昼夜を問わずコース整備に励んだ猪苗代スキー場、アルツ磐梯リステルスキーファンタジアのスタッフたち。そして、それを応援するため近隣のスキー場からは無償で人口降雪



フリースタイルスキーへの情熱をたたえられた鈴木相談役

ルスキー界の発展のために尽力してきた鈴木相談役に謝意を示した。

二日に行われた開会式では、本町の保育園児や小学生、県内の市町村の生徒らが「おもてなしの心」で世界各国の選手や関係者を迎えた。

開会式の前に開催されたアトラクションでは、長瀬小学校のマーチングバンドが登場。六年生にとつては最後の晴れ舞台とあって、児童らはきびきびとした切れのある動きと息のあった演奏を披露した。その後には町内三保育所の児童らによる白虎隊の演舞が

町を挙げてのおもてなし

披露され、外国人選手たちは興味深げに見入っていた。選手らの入場口には、猪苗代キッズスキークラブの子どもたちが並び、小旗を振りながら入場する選手たちを歓迎し



見事な演舞を披露する児童ら

た。入場行進する選手たちを先導したのは、ボーイスカウト福島連盟の生徒たち。緊張した面持ちながらもしっかりと選手たちを先導した。

町中を二千九個の雪だるまで飾り、本町を訪れる選手や関係者、観客などを歓迎する「スノードリーム2009」いなわしる雪だるま祭り」開会式の会場となるカメリーナ周辺や三つのスキー場に続く道路、町の中など町内のいたる所に雪だるまが出現し、来訪者を出迎えた。



カメリーナ周辺の会場では、町内の親子連れや小学生らの協力により多くの雪だるまが作製された。

Interview

私の感じた世界選手権



富山県から観戦に訪れたスキーヤー全試合を応援

桐谷 伸一さん

スキー全般が大好きで、自身もモーグル、ハーフパイプ、スキークロスなどをやっているという桐谷さん。

「楽しいです。見に来てよかった。ただモーグル以外の競技の観客が少ないと感じました。あれでは選手たちがかわいそう。世界大会ですからもう少し県外などへのPRもしてくれれば良かったのかなと思います」と苦言も呈しました。

運営については、「雪の少ない中、これだけのコースを整備してくれたことにファンとして感謝します。各会場で小学生などを観戦させていたことはすごく良いことです」と語りました。



奈良県からモーグルとデュアルモーグルを観戦に

尾谷 敏尚さん

「初めてモーグルの試合を見ました。日本人選手の優勝、入賞がうれしいです」と語った尾谷さん。「12月からチケットや宿の手配など、猪苗代町観光協会にはお世話になりました。高速道路のトンネルを抜けて、磐梯山と猪苗代湖が見えたときは風光明媚な所だと思いました」と猪苗代の印象を話しました。

「雪不足のためトラックで雪を運んだと聞きました。大会準備ご苦労さまでした。観客が多くてよかったですね」と語り、スタッフの苦労をねぎらいました。

※共に上村愛子選手からもらった花を持っていた桐谷さんと尾谷さん。この会場で意気投合し、来年のバンクーバー冬季五輪観戦を約束していました。

猪苗代大会で出会い、猪苗代町が思い出の地となるというのは、わたしたち町民にとってもうれしいことではありませんか。

ボランティアから一言



横浜市から参加した 佐藤 隆則さん

インターネットHPを見て応募し、土日の2日間、記念グッズの販売を担当しました。大会運営を支えるボランティアとして協力できたこと、選手と勝利の喜びを共有できたことが光栄です。スタッフ間の情報の共有やボランティアや手伝いの人との段取りでは一部悪いところがありましたが、こういう機会を与えてくれた事務局の人に感謝します。

～ Volunteer's Voice ～



会津若松市から参加した 田代 淳子さん

初めてボランティアに参加して2日～8日までグッズの販売をしました。地域応援団のお母さんたちや、いろいろな人と知り合いになれてよかった。観客の数にびっくりして、世界大会ってすごいんだなと思いました。

実際に目の前で見る競技は、まさに世界レベルという感じでした。上村選手の感動の優勝の場にいられたのは良かったです。

これからの

「まぢづり」への答え



曲淵地区 鈴木忠彦区長

「おもてなしの心」を
伝え続けた地区住民の働き

きっかけは、トリノ冬季五輪バイアスロン競技に出場した曲淵出身の目黒香苗選手への応援でした。町民の皆さんの応援や募金のおかげで当地区からも数名が現地での応援に参加することができました。そのときにトリノで受けた現地の人の歓迎は非常に温かいもので、とても感激しました。W杯や世界選手権に参加する外国の選手たちにも同じ気持ちになつてほしいと応援をすることにしました。

「やるからには最高のおもてなしをしよう。それがあの時の恩返しになる」と地区住

御礼のまぢづり

猪苗代町長 津金要雄

この度の二〇〇九年FISフリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会の開催にあたりましては、多大なるご支援、ご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

大会が成功裏に終わりましたのもひとえに皆さまのご協力のおかげと重ねて御礼申し上げます。



レースディレクターのジョー・フィッツジェラルド氏は組織委員会に金メダルをあげたいと語った

誘致が決まった時点からいろいろと紆余曲折を経た大会でした。三年計画で大会の成功を目指しましたが、一年目のリハール大会の赤字が大きく取り上げられてしまい、当時は残念な思いもありました。百年に一度といわれる不況

民が一体となって取り組みました。地区の入り口に巨大な雪だるまを作り、商工観光課の協力を得て横断幕や万国旗など

で飾りました。道路沿いの雪だるまは二トトラックで何十回も雪を運び、サポーターズクラブのメンバーと作ったものです。

大会中はできるだけ会場に足を運び、地域応援団として選手を応援しました。晴天のせいで雪だるまはすぐに溶けてしまいましたが、「おもてなしの心」は伝わったと思います。スキークロスの会場ではノルウェーの選手への応援をしましたが、国旗を振り応援する姿を見た選手がわざわざこちらまで感謝の気持ちを伝えてくれました。

地区住民と行政が一体となって精一杯応援できたと思います。



We are Supporters Club

も重なり、スポンサーや寄付など運営費の確保も大変でしたが、今思えば、逆に資金が潤沢にあつたらこんな盛りに上がらなかったかもしれませ

ん。苦しい中、町民の皆さんには、今までになかったような結束力をもって協力をしていただき、そういった困難を乗り越えることができたと思

います。私は町民の皆さんの持つてい

ました。まさに第六次振興計画の行動指針「参加と協働」に沿った形でのかわり方ができたのではないかと思います。

猪苗代や日本だけではなく国際的な不況、温暖化による地球規模の雪不足、人為的にどうにもならないようなことを町民・県民の結束で乗り越えることができたのだと、

町民一人一人、職員一人一人が自信を持っていい結果だと思

この「結束力」今までわれわれが欲しいと思

いながら、なかなか手に入らなかった力を、このまま終わ

らせずにいろいろなことに発揮し続けていきたいと思います。

この力があれば何も恐れることはありません。希望を持って、「協働」によるまぢづりを進めていこうではあり

りませんか。

組みは、雪不足を解消し、見事なコースを完成させました。

延べ約千三百人を超えるボランティアの協力をいただき、二万三千人を超える参加来場者を記録したこの大会の成功を疑う人はいないでしょう。

官と民の力を一つにして協力すればこれだけのことがやれるという証明になったこの大会は、官民一体のまぢづりの一つの成功例だと思います。

かたちが変わっても協力しあつてまぢづりを進めていこうという気持ち

が、皆さん一人一人の胸に刻まれたとしたら、その思いが世界選手権が残してくれたものだと思います。

世界的な大会が残してくれたこの盛り上がりを一過性のものに終わらせ

ずに「協働」の気持ちをしていくことは、われわれ行政と町民の皆さんの共同の課題です。

取材を終えて

約五年にわたって取り組んだ世界選手権猪苗代大会は無事閉幕しました。多くの人が語ったように、この大会が成功にこぎ着けるまでには本当にいろいろな問題がありました。

しかし、それらの問題をすべてクリアし、大会を成功まで導いたのは、絶対に成功させるんだと取り組んできた事務局をはじめとするスタッフと、われわれが何とかしなければと立ち上がった企業・県民・町民の皆さんに他なりません。

たくさんの方の企業や団体、個人から寄せられた寄付や協賛。各種団体や地区住民などによる人的支援は、運営費不足問題を消し去りました。

多数のボランティアが大会前から雪だし作業に従事したり、会場以外のほかのスキー場からも人口降雪機が提供されるなど、猪苗代・磐梯エリアとしてのまとまった取り

組みは、雪不足を解消し、見事なコースを完成させました。延べ約千三百人を超えるボランティアの協力をいただき、二万三千人を超える参加来場者を記録したこの大会の成功を疑う人はいないでしょう。官と民の力を一つにして協力すればこれだけのことがやれるという証明になったこの大会は、官民一体のまぢづりの一つの成功例だと思います。かたちが変わっても協力しあつてまぢづりを進めていこうという気持ち